



## 国際科学者会議における小泉総理大臣演説について

日本原子力研究所那珂研究所核融合装置試験部

二宮博正

2003年1月11日の朝日新聞に、“ロシア訪問中の小泉首相が同国の原子力研究の中心であるモスクワ市のクルチャトフ研究所で講演し、日本が青森県六ヶ所村への誘致をめざす国際熱核融合実験炉(ITER)について、首相は「ロシアの開発した技術がわが国で花開くならば、日露科学技術協力の成果として、これに勝るものはない」とロシアの協力を求めた”とあった。詳しく知りたいと思ひ調べたところ、首相官邸のホームページ「国際科学者会議における小泉総理大臣の演説について (<http://www.kantei.go.jp/jp/koizumispeech/2003/01/11kouen.html>)」に演説文が掲載されていた。プラズマ・核融合学会会員にとっても興味ある講演と思われるので、関連する部分を紹介したい。

講演は1月11日に国際科学者会議で行われ、小泉首相は始めに、「本日は各国から著名な科学者の集うこの国際科学者会議にて講演する機会をいただき、大変嬉しく思います。ヴェリホフ・クルチャトフ研究所所長を始めとする関係者の皆様にまずお礼を申し上げます。本日は、科学技術と人類の未来に関する私の考えを述べたいと思います。」と述べた後、「科学技術と人類の責任」、「20世紀の負の遺産としての領土問題」、「非核化にむけた日露の協力」について、最後に「平和と繁栄の21世紀のための科学技術」に関して講演し、この中で、核融合について以下のように触れている。

「環境の問題を心配しないといい、安全性が高く、恒久的に利用が可能なエネルギー資源の確保は、人類の夢であります。世界が持続的な成長を確保し、繁栄を遂げ

るためには、必ずや達成されなければならない目標です。資源面での制約や、環境への負荷がほとんどない核融合は、この夢をかなえてくれる可能性を秘めた、大変重要な科学技術です。そして、国際熱核融合実験炉(ITER)こそ、科学技術分野における日露パートナーシップの意義を象徴的に示すプロジェクトであると言えます。

ロシアでは、ヴェリホフ所長をはじめとするクルチャトフ研究所を中心として、ITERの研究開発を進めてこられました。なにより、ITERで使われるトカマク型炉は、このクルチャトフ研究所において開発されたものです。ITERの設計にあたって、ロシアが製作した超伝導コイルを、日本の試験装置に組み込み、トロイダル磁場コイルの実現性を実証したことは、ITERの歴史において、日露協力の輝かしい成果であります。

わが国は、ITERが青森県六ヶ所村において建設されることを強く期待しています。ロシアの開発した技術が、わが国で花開くならば、日露科学技術協力の成果として、これに勝るものはないでしょう。わが国は、六ヶ所村にITERを誘致して、ロシアをはじめ世界の研究者の皆様とともに働けることを、心から楽しみにしています。」

なお講演の全文についてはホームページを参照していただきたい。

(2003年1月30日受理)